

どうなる？ 上信線。 どうする！ 私たち。



■ 問合せ先
群馬県国土整備部交通政策課
☎027(226)2385
町企画課企画調整係 内線241

1日あたりの乗車人員(平成30年)



甘楽町からの乗車状況
町内各駅の1日あたりの乗車人員は平成30年で上州福島駅296人、上州新屋駅136人です。利用は通学が多く、また、通勤・通学ともに高崎市への移動が多く占めています(図5)。上信線は、高崎市と甘楽・富岡地域をつなぎ、希望する場所での学校・職業生活を送るための重要な交通手段となっています。

・観光客や居住者の減少など地域の魅力低下
・皆さんの生活や地域への影響が心配されます。

上信線がなくなると地域はどうなる？

上信線がなくなった場合には、

・行きたい学校、会社に通えない

・体調不良のときにも運転し

・いつか運転免許証を自主返納したとき

・観光客や居住者の減少など地域の魅力低下

・皆さんの生活や地域への影響が心配されます。

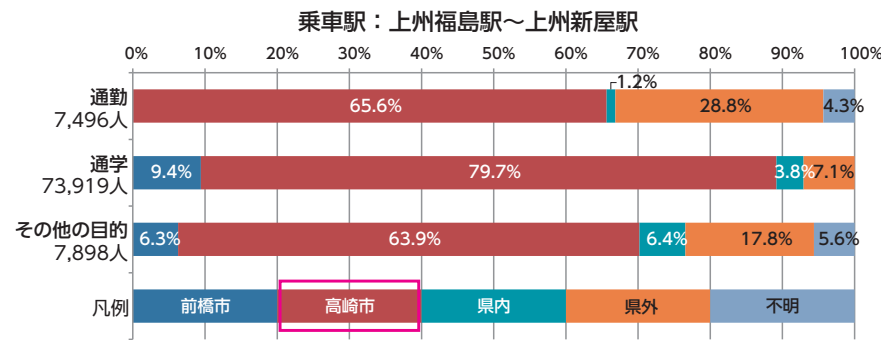


図5 利用者の乗車駅所在地別・目的別訪問先
(目的別延べ年間利用回数を訪問先別に集計。出典：PT調査)

毎日の通学・通勤、ときどきの通院や買い物、そんな日常生活や、魅力ある地域への観光誘客に、これからも上信線が当たり前前にあり続けるため、私たちができること

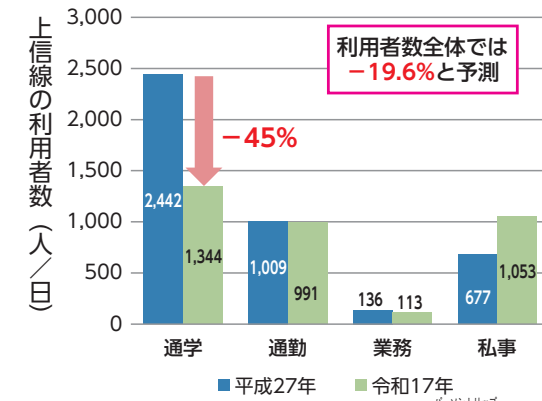


図1 上信線利用者数の将来推計(出典：PT調査)

群馬県の調査で、本県はクルマに大きく依存しているため、鉄道の利用者がとても少ないこと、また、少子化の影響により、通学などの利用者はさらに減少する見込みであることがわかりました。上信線では、これまでの利用と変わらなければ、令和17年には利用者が2割近く減少する見込みで(図1)、存続が心配されます。

あらためて考えてみる、そして、皆さんに求められるアクション

■ **上信線は地域に不可欠なもの**
上信線は、お子さんの通学のため、車を運転できない人のため、住んでいる地域とほかの地域をつなげることに、地域で暮らし続ける皆さんを支えています。さらには、沿線の観光の玄関口として、地域の活性化やふるさとの魅力向上にも貢献しています。

■ 週1回・月1回からの鉄道利用

少子高齢化が進展する中、上信線の維持・存続のためには、観光客の一次的な利用に頼らず、通勤など日常生活の中で、住民自らがしっかりと運行を支えていくことが必要です。

皆さん一人ひとりに、週1回、月1回からでも鉄道を使う意識と行動(アクション)が求められています。

日常のさまざまな場面で、皆さんの暮らしに鉄道利用を取り入れるチャンスがあります。

まずは、週1回、月1回からの鉄道利用について、一緒に考えていきましょう。

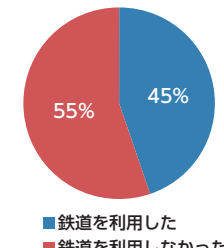


図2 ここ1年で外出時に鉄道を利用したかどうか(出典：PT調査)

■ **駅が近くにあっても使われていない?**
上信線の1日あたりの乗車人員は平成30年度で約6,100人、10年前に比べて1・65%減少しています(図3)。

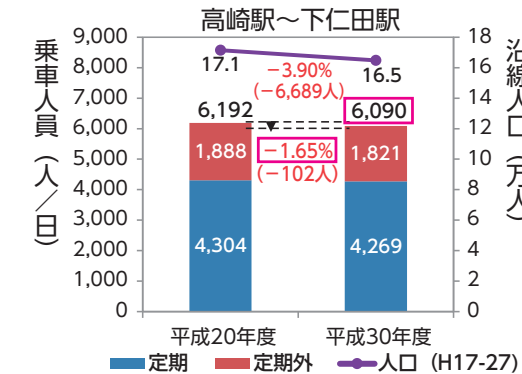


図3 乗車人員と沿線人口(資料：上信電鉄、国勢調査)

一方、鉄道が利用できる場所に自宅や会社があっても、車で通勤している人は1日あたり約6,700人で、上信線で通勤している人はわずか7・4%です。同じ条件でも、通学では54・1%の人が上信線を利用しています(図4)。

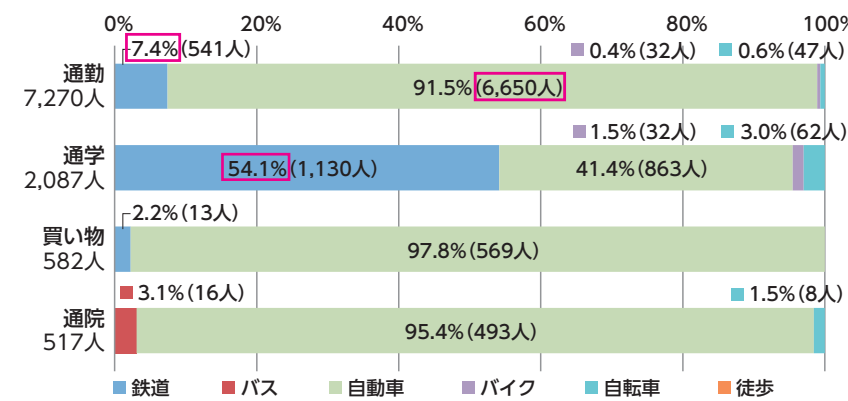


図4 鉄道利用が現実的と考えられる条件における交通手段構成(出典：PT調査)

一人ひとりが具体的なアクションを！ 上信電鉄を利用して大切な地域の足を守ろう！

例えば...

- 4月からの新生活で、通勤・通学に鉄道を利用してみる
- 飲み会があるときは通勤時から鉄道を利用してみる
- デマンドタクシー「愛のりくん」で最寄り駅まで行き、そこから鉄道を利用してみる
- 荒天のときは鉄道を利用してみる
- 鉄道を利用して旅行や買い物に出かけてみる



鉄道の利用促進に向けて

県と町では協議を重ね、鉄道利用促進に向けた対策として、「上信線利用促進アクションプログラム(行動喚起編)」を策定し、より鉄道を利用しやすくなるような取り組みを検討しています。プログラムの内容は、県ホームページで公表しています。ぜひご覧ください。

